







# Canada & Mali

1月21日（水），“世界につながるまち盛岡”市民会議（田口幸雄会長）は、盛岡駅ビルフェザンにおいて、東京2020オリンピック・パラリンピックに関するホストタウン事業を盛り上げる機運を高めることを目的に、「ホストタウンの相手国を知ろう！」を開催しました。

会場では、盛岡のホストタウンであるカナダとマリ共和国に関する様々な文化を紹介するパネル展を開催。また、夕方にはマリ共和国出身のママドゥ・ドゥンビアさんらによる、伝統楽器を使った演奏会が行われ、通りかかる多くの人が足をとめて演奏に耳を傾けていました。

盛岡ではこれまで、カナダの水球やラグビーセブンズの事前合宿の受入れを行っており、市民との交流イベントも様々な形で実施されています。

いよいよ2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年。この大会を契機に、盛岡にも過去最大の訪日外国人客が見込まれます。

## 「ホストタウン」とは？

「ホストタウン」として国に登録された地方自治体は、相手国（東京2020オリンピック・パラリンピック大会の参加国・参加地域）との人的・経済的・文化的な相互交流を行うため、事前合宿の受け入れや、大会参加選手と市民等との交流会などを行います。

## 盛岡市の「ホストタウン」相手国は？

盛岡市は、カナダ（2016年12月登録）とマリ共和国（2019年8月登録）の2国のホストタウンとして、内閣官房より認定を受けています。令和2年2月時点で、次の競技の事前合宿の受入れ予定は次のとおりです。

- ・ラグビー（カナダ）男子、女子（ともに決定）
- ・水球（カナダ）女子（男子は3月以降決定）
- ・柔道（マリ共和国）（5月以降決定）
- ・スポーツライミング（カナダ）（予定）

# コミュニティリーダー研修会

2月9日（日）、盛岡市総合福祉センターでコミュニティリーダー研修会が開催され、地域活動団体の役員等、約100人が参加しました（共催：盛岡市、盛岡市町内会連合会、玉山地域自治会連絡協議会、“世界につながるまち盛岡”市民会議）。ここでは、発表や講演の主な内容を紹介します。



## 第一部

次の2団体から、これまで取り組んできた地域活動について、ご紹介いただきました。

### 境田町町内会

令和元年度  
岩手県「元氣なコミュニティ特選団体」認定団体

地域のきずなづくりのために「ふれあいサロン」や「ふれあい夏祭り」を行っているほか、防犯パトロールを実施するなど、安心で快適な暮らしの仕組みづくりに取り組んでいます。子ども会で作成した地域安全マップは、平成28年から4年連続で、岩手県の最優秀賞を受賞しました。



### 乙部地域協働のまちづくり事業推進委員会

盛岡市「地域協働推進事業」実施団体

生涯にわたりスポーツが楽しめるよう、ゲートボール場整備や交流大会に力を入れています。また、地域史の発行といった文化保全活動を実施しているほか、ヤマメの放流・生き物探検など、乙部の自然豊かな地域資源を生かした活動を行っています。



## 第二部

## 「お客様」をつくらない地域づくり

講師：特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 西川正理事

役員の担い手不足や参加者の固定化等の背景にあるのは、住民のお客様化。地域づくりがサービスとして提供されると、住民の当事者意識は低くなります。その結果、住民同士が一緒に考えたり、会話をしたり、行動するという場面が、生活の中から徐々に消えていきます。お客様をつくらないコツは、一緒にやること。イベントを行うとき、役員が企画から後片付けまですべて担うのではなく、参加者にもあえて仕事を残しておくことがポイント。そして、参加者に「一緒にやってもらえませんか」と声をかけてみる。知らない人同士でも一緒に作業をすることにより、自然に仲間に溶け込んでいくことができます。住民のためではなく、住民と一緒にその場をつくることを少し意識することで、場の雰囲気が大きく変わり、また負担感が達成感へと変化します。一緒に作業をしたり、何かを持ち寄ったりするなど、ちょっとした工夫から、「みんなで一緒にやった」という感覚が生まれ、住民がお客様から当事者になっていききっかけになります。



## 講演

## 第三部

## 一緒に考えよう！「遊び」が生まれるコミュニティのつくり方

講師の西川さんと4名のパネリストが、自身の経験を基に、地域活動の楽しさや大切にしていることを話し合いました。西川さんは、『人がつながり動き出すのは、その場に「遊び」があるかどうか。遊びには、「余裕・余地」（車のハンドルのアソビと同じ）と、「何かをやってみよう」という2つの意味があります。「失敗しても大丈夫」という安心感と、「自分なりに工夫できる余地」の2つが約束されていると、人は「やってみよう」と動きます。最初から正解があるところでは、そういう気持ちは芽生えません。そして、「やり方を変えたら今までどおりうまくいかないかもしれない」というドキドキ感を共有した人が、担い手になっていきます。仲間になっていくとは、そういうことだと思います。』と総括しました。



<パネリスト>

- ・事例発表2団体
- ・青山地区まちづくり協議会
- ・盛岡市社会福祉協議会

## トークイベント